

ゼロカーボンシティ宣言

高松市は、「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。昨年12月3日の定例記者会見で表明し、全国で181番目の宣言都市となりました。

横文字ばかりでよく分からない、という人も多いと思います。直訳すると「炭素（カーボン）を排出しない（ゼロ）都市（シティ）」。地球温暖化の主要な原因とされている温室効果ガス（ほぼ二酸化炭素）の実質的な排出を2050年頃までにゼロにすることを目指すことを宣言した自治体のことを言います。

近年、台風や豪雨などの異常気象による災害が国内外で増加していることは、多くの国民が実感しているところだと思います。その大きな要因となっているのが、地球温暖化の問題だとされています。それは、「気候危機」と言われるまでの厳しい状況です。これを乗り越えて行くためには、温暖化を止める、あるいはその進行を遅らせることが必要です。

そんな中、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年前後に二酸化炭素の排出を実質ゼロにする必要がある」とする国際機関（IPCC）の特別報告書が出されました。これを受け、国内外で脱炭素化への動きが加速しています。我が国においても昨年10月、菅総理が「2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロの脱炭素社会を目指す」ことを宣言しました。

そもそも都市の再生を図るためには、アメニティ（住み心地の良さ）を高める必要があり、そのためにエコロジー（自然との調和）を重視すべきことは、従前から指摘されてきたことです。中でも、地球温暖化の問題は、都市の持続可能性にも直結する問題で、思い切った政策転換が必要だと言われてきました。ごみ処理や交通、地域エネルギー、吸収源としての緑化や森林、農業政策など、脱炭素の取り組みはまちづくりと直結するのです。

宣言では、「温暖な気候に恵まれ、災害が比較的少なく暮らしやすい高松を、未来を生きる次世代に引き継いでいくため」、「『ゼロカーボンシティ』の実現に向け、市民や事業者の皆様と共に、総力を挙げて取り組むこと」としています。皆さんと一緒にスタートラインに立って、知恵を出しながら進めていければと思います。

